

医学系研究のCOI(利益相反)に関する細則

日本脳神経外科コンgres

COI委員会

(目的)

第1条

この細則は、日本脳神経外科コンgresが「医学系研究のCOI(利益相反)に関する指針」(以下、「本指針」と略す。)を対象者に遵守させるにあたり、本指針の具体的な運用方法を示すことを目的とする。

(COIに関する自己申告)

第2条

以下の対象者は過去3年間のCOIの有無を明らかにする義務がある。すなわち毎年、前年1年間(前年1月～前年12月)におけるCOIの有無について、そして第4条に定める基準を超えるCOIが存在する場合には、COIに関する自己申告書を一般社団法人日本脳神経外科学会会員専用HPから毎年の3月末日までにオンライン登録することが求められる。

そして、前々々年から前年までの連続3年間におけるCOIについてオンライン自己申告を完了していることをもって、COI自己申告の対象となる事業活動について必要な対象期間(3年間)の自己申告・開示を済ませているものとみなす。

ただし、COIを最終的に自己申告した時点から役員就任や学会・論文発表までの間に第4条に定める基準を超える新たなCOIが発生した場合には3か月以内にすみやかに修正申告を行う義務を有する。

また、以前に自己申告した内容に誤りがあったことが判明した場合には、COI委員会に届け出のうえ、速やかに修正申告を行う義務を有する。

1. 日本脳神経外科コンgresの役員
2. 前号以外の日本脳神経外科コンgresのすべての会員
3. 日本脳神経外科コンgresの雇用する事務職員

(非会員による自己申告)

第3条

一般社団法人日本脳神経外科学会の会員ではない者が日本脳神経外科コンgresにて下記の事業を行う場合には、学会発表や論文投稿に際してさかのぼる3年間におけるCOIの有無を明らかにする義務がある。過去3年間におけるCOIが第4条に定める基準を超える場合には、学会発表や論文投稿に際してその内容を自己申告することが求められる。

1. 日本脳神経外科コンgresが行う学術総会及びこれに関係したセミナーや講演会などにおける発表

2. 日本脳神経外科コンGRESの機関誌脳神経外科ジャーナルにおける論文発表をする者

(COIに関する自己申告書の提出が必要とされる基準)

第4条

自己申告が必要な金額を次のように定める。なお、開示する義務のあるCOIは、日本脳神経外科コンGRESが行う事業や医学系研究に関する発表内容に関連する企業や営利を目的とする団体に関わるものに限定する。

1. 企業や営利を目的とした団体の役員、顧問職については、単一の企業・団体からの報酬額が年間100万円以上は申告する。
2. 株の保有については、単一の企業についての1年間の株による利益（配当、売却益の総和）が100万円以上の場合、あるいは当該全株式の5%以上を所有する場合は申告する。
3. 企業や営利を目的とした団体からの特許権使用料については、1件あたりの特許権使用料が年間100万円以上の場合には申告する。
4. 企業や営利を目的とした団体から、会議の出席（発表、助言など）に対し、研究者を拘束した時間・労力に対して支払われた日当（講演料など）については、単一の企業・団体からの年間の講演料が合計100万円以上の場合には申告する。
5. 企業や営利を目的とした団体が原稿やパンフレットなどの執筆に対して支払った原稿料については、単一の企業・団体からの年間の原稿料が合計50万円以上の場合には申告する。
6. 企業や営利を目的とした団体が提供する奨学寄付金（奨励寄付金）については、単一の企業・団体から、申告者を研究代表者として申告者個人または申告者が所属する講座・分野または研究室に対して、間接経費などを差し引き申告者が実質的に用途を決定し得る寄附金で実際に割り当てられた総額が年間200万円以上の場合には申告する。
7. 企業や営利を目的とした団体が契約に基づいて提供する研究費については、単一の企業・団体から、医学系研究（共同研究、受託研究、治験など）に対して、間接経費などを差し引き申告者が実質的に用途を決定し得る研究契約金で実際に割り当てられた総額が年間200万円以上の場合には申告する。
8. 非営利法人(例、NPO)や公益法人（例、社団、財団）からの受託研究費や研究助成費で、交付金額が年間1000万円以上である場合に、企業や営利を目的とした団体が当該受託研究費や研究助成の専らの出資者である場合には、研究代表者が申告する。
9. 企業や営利を目的とした団体からの寄付による大学の寄付講座については、特任教授など当該講座の代表者が申告する。複数の企業などから資金提供されている場合には、実質的に用途を決定し得る寄附金で実際に割り当てられた総額が一企業当たり年間200万円以上の場合には申告する。

(日本脳神経外科コンGRESが行う学術総会などにおける発表)

第5条

1. (演題応募時) 日本脳神経外科コンGRESSが行う学術総会、教育講演会、および市民公開講座などで発表を行う筆頭演者は、自らの COI の有無を明らかにしなければならない。一般社団法人日本脳神経外科学会会員は演題応募時に第2条に記載したオンライン登録が完了していることが要求され、未完了の場合には演題応募ができない。非会員の場合には、第3条に則って自己申告の提出が必要とされる。
2. (発表時) 発表時には、発表スライドあるいはポスターの最後に、筆頭演者の COI について(様式1)に従って開示する。
3. COI がある場合には、当該企業名のみを表示する。

(日本脳神経外科コンGRESSが発行する機関誌などにおける発表)

第6条

1. (投稿時) 日本脳神経外科コンGRESSの機関誌脳神経外科ジャーナルなどで発表を行う著者(筆頭著者およびすべての共著者)は、投稿規定に定める様式2 (Form 2) により、COI を明らかにしなければならない。投稿時には、第2条に記載したオンライン登録が完了し、本論文に関する COI を明記することが要求される。
2. (掲載時) 投稿責任者は、論文本文末(文献の前)に本論文に関する COI 状態を記載し、論文掲載時にはその内容は紙面に印刷される。

(COI 委員会)

第7条

COI 委員会は常設の機関であり、会長からの指名を受けた3~4名で構成され、任期は3年とする。

(役員等)

第8条

1. この規則で規定する役員とは、日本脳神経外科コンGRESSの役員を指すものとする。
2. 具体的には、日本脳神経外科コンGRESSの役員は、新たに就任する時と、就任後1年ごとに第2条に記載したオンライン登録が完了していることが要求される。
3. COI を自己申告した時点から役員就任時までの間に、申告すべき基準に達する新たな COI が生じた場合には、以前に申告した内容を役員就任時に修正する義務をもつ。修正は一般社団法人日本脳神経外科学会会員専用 HP を用いて行う。
4. 在任中に申告すべき基準に達する新たな COI が生じた場合には、以前に申告した内容を原則として8週以内に追加修正する義務を負うものとする。追加修正は一般社団法人日本脳神経外科学会会員専用 HP を用いて行う。この追加報告業務を輔弼するために、COI 委員会事務局は偶数月のはじめに役員に、申告すべき基準に達する新たな COI の発生の有無について事情照会を行う。

(指針違反者への措置)

第 9 条

1. COI委員会は、「医学系研究のCOI（利益相反）に関する指針」に違反する行為に関して審議する権限を有し、その審議結果を運営委員会に答申する。その答申に基づいて重大な遵守不履行に該当すると判断した場合には、運営委員会はその遵守不履行の程度に応じて一定期間、以下に定める措置を取ることができる。
 - ① 日本脳神経外科 kongress が開催するすべての集会での発表の禁止
 - ② 日本脳神経外科 kongress の刊行物への論文掲載の禁止
 - ③ 日本脳神経外科 kongress の役員ないし学術総会会長就任の禁止
 - ④ 日本脳神経外科 kongress の委員会への参加の禁止
 - ⑤ 日本脳神経外科 kongress の会員の除名、あるいは会員になることの禁止
2. 前項の措置を受けた者は、日本脳神経外科 kongress に対して不服申立をすることができ、日本脳神経外科 kongress が不服を受理したときは、これを臨時審査委員会に付議する。
3. 臨時審査委員会は COI 委員会の委員以外の会員から事案ごとに会長が指名した 3～5 名をもって構成される。臨時審査委員会は、第 1 項の措置が適正であったか否かの再審理を行い、審理の結果について運営委員会の協議を経て、その結果を被措置者に通知する。被措置者に通知がなされた時点をもって同事案の臨時審査委員会はその任務を終了する。

(オンライン登録された COI 自己申告書の取扱い)

第 10 条

1. 本細則に基づいて日本脳神経外科 kongress により提出された COI 自己申告書およびそこに開示された COI 情報は学会事務局において、会長を管理者とし、個人情報として厳重に保管・管理する。
2. COI 情報は、本指針に定められた事項を処理するために、運営委員会および COI 委員会が随時利用できるものとする。この利用には、当該申告者の COI 状態について、疑義もしくは社会的・法的問題が生じた場合に、COI 委員会の議論を経て、運営委員会の承認を得た上で、当該 COI 情報のうち、必要な範囲を学会内部に開示、あるいは社会へ公開する場合をも含む。
3. COI 情報について外部の分科会から開示請求がなされた場合、COI 委員会が審議したうえで必要と認めた範囲で開示することができる。
4. 自己申告により提出された COI 自己申告書およびそこに開示された COI 情報の保管期間は登録後 5 年間とする。保管期間を過ぎた書類については、会長の監督下において速やかに削除・廃棄するが、削除・廃棄することが適当でないと運営委員会が認めた場合には、必要な期間を定めて当該申告者の COI 情報の削除・廃棄を保留できる。

(施行日および改正方法)

第 11 条

日本脳神経外科コンgres COI 委員会は、原則として 2 年ごとに本指針の見直しを行い、運営委員会の決議を経て、本細則を改正することができる。

附則

1. 本細則は平成 24 年 10 月 1 日より施行する
2. 平成 25 年 5 月 11 日改正
3. 平成 26 年 5 月 17 日改正
4. 平成 27 年 5 月 9 日改正
5. 平成 27 年 11 月 1 日改正
6. 平成 29 年 11 月 1 日改正
7. 平成 30 年 6 月 1 日改正